

第 3 分科会

合同部活動を考える

ー「今、なぜ合同部活動を考えないといけないのか」ー

分科会名簿

荒城	正人	・富山いずみ高等学校	・ソフトボール専門部 (企画委員)
水本	可菜恵	・南砺総合福野高等学校	・バレーボール専門部
谷口	丈明	・富山東高等学校	・ラグビー専門部
浦山	英樹	・富山商業高等学校	・相撲専門部
山本	浩二	・富山工業高等学校	・剣道専門部
西島	隆	・桜井高等学校	・レスリング専門部
谷川	英俊	・砺波工業校高等学校	・弓道専門部
生駒	孝宏	・上市高等学校	・空手専門部
林	美香	・南砺総合福野高等学校	・なぎなた専門部
松田	昇平	・中央農業高等学校	・ゴルフ専門部
赤座	裕美子	・水橋高等学校	・フェンシング専門部

1 はじめに

平成12年度から「合同部活動について」の調査研究が始まった。生徒数減少や部活動離れで公式戦に出場できない学校が増加した。また、各学校で廃部や休部が急増してきた。その様な状況下で他県では、合同部活動の試みが行われていた。本県では、合同部活動の模索が全県下の高校への調査を通して始まった。そして2年間の調査研究を経て、平成14年度からラグビー専門部では公式戦に合同チームの参加を認める試みをした。

平成14年度からの2回目の調査研究では、ラグビー専門部の試みを基に合同部活動の今後の発展性や問題点を探る調査研究が行われた。また、ソフトボール専門部やバレーボール専門部でも同様の生徒減に伴う問題がおき、ラグビー専門部の取り組みを参考にして合同部活動についてそれぞれの立場から討議・研究された。まとめでは、ラグビー専門部では合同部活動を行った結果、危機的な状況が回避されチーム数の増加が見られ、意義ありとの報告がなされた。しかし、継続的な合同チームではなく、部員数が確保されるまでの一時的な救済的な対応で本来の合同部活動ではなかった。ソフトボール専門部は、上位の大会につながる大会には合同チームの参加を認めている。これも一時的な救済的対応で、大会直前に合同チームを結成しての参加である。公式戦での合同チームの参加については競技の特性・強化の理論で認められなかった。

平成16年度から、再々度「合同部活動について」のテーマで分科会が設けられた。今までにない大人数の分科会で、合同部活動が集団競技の専門部だけの関心事でなくなってきていることを伺わせた。16年度は分科会所属の先生方の各校の部活動の様子を発表し情報交換した。その結果17年度から、第4分科会では「今、なぜ合同部活動を考えなければならないのか」と原点に戻り、学校規模に応じた適正な部活数や生徒減少期の部活動の工夫した運営方法を調査研究することとした。

そして、平成17年度に南砺総合高校の福野高校と福光高校の柔道部で、運動部合同部活動の協定が締結され、目指すべき合同部活動が実現した。この試みも調査していきたい。

2 調査方法

(1) 第4分科会所属の研究部員の学校(8校)の部活動をアンケート調査(資料1)

富山商業、富山東、富山工業、富山いずみ、桜井、福野、上市、砺波工業

(2) その他、特色のある学校(5校)の部活動をアンケート調査(資料1)

富山中部(21学級)、呉羽(研究調査拠点校)、小杉(12学級)、泊(11学級)、井波(9学級)、小矢部園芸(3学級)

3 調査結果

質問紙によるアンケートを平成17年5月に実施した。5人以上の集団競技での活動状況は以下の様であった。

男子運動部	○一活動 ●一部員難 休一休部									学級数
	ラグビー	サッカー	野球	軟野	ソフトボール	ハンド	バレー	バスケット	その他	
富山中部		○	○			○	○	○		21
富山商業		○	○	○				○		21
富山工業	○	○	○			○	○	○		18
富山東	○	○	○		●	○		○		18
桜井		○	○				○	○	ソフトテニス	17
富山いずみ		○						○		17
福野		○	○				○	○		15

呉羽		●	○			○		○		15
上市		●	○					○		12
小杉		休	○				○	○	柔道	12
砺波工業	○	○	○				○	○		12
泊		○	●				○	○		11
井波			●					○		9
小矢部園芸		●	●					○		3

男子部では、バスケットボールがすべての学校で実施され問題なく活動されていた。続いて野球、サッカーが多く多くの学校で実施されていた。しかし部員不足や休部といった問題が幾つかの学校で見られた。ラグビー、軟式野球、ハンドボール、バレーボールを実施している学校もあるが、問題なく活動されているようであった。

女子運動部	ラグビー	サッカー	野球		ソフトボール	ハンド	バレー	バスケット	その他	学級数
富山中部					○		○	○		21
富山商業					○		○	○		21
富山工業							○			18
富山東					○		○	○		18
富山いずみ					○	○	○	○		17
桜井					○		○	○	ソフトテニス	17
福野					○		○	○		15
呉羽		○			○		○	○		15
小杉						○	○	○		12
上市							○	○		12
泊							○	○		11
井波					○		○	○		9
小矢部園芸										3

女子部では、バレーボール、バスケットボール、ソフトボールの順で多く実施され、問題なく活動されていた。

4 事例研究

(1) 少人数で運営されている学校の状況について（平成17年5月調査）

事例1 富山工業高校の女子バレー部

女子生徒数 51人

- 1、女子の運動部をバレー部と陸上部の2つ。
- 2、バレー競技の経験者が継続的に顧問。
- 3、1年生は全員加入制。
- 4、1年の担任がバレー部の入部を進める

事例2 井波高校のソフトボール部、バレーボール部、バスケットボール部

女子の全校生徒数 262人

- 1、全員加入制をとっている。
- 2、運動部の加入率が53.1%

事例3 呉羽高校 男子部のサッカー部、野球部、ハンドボール部、バスケットボール部

男子の全校生徒数 191人

- 1、男子の運動部数10。全体24。
- 2、全校生徒数/部数=23.8と高い。
- 3、生徒減少の過渡期。
- 4、サッカー部が部員難。

事例4 小杉高校 男子部のサッカー部、野球部、バレーボール部、バスケットボール部

男子の全校生徒数 138人

- 1、サッカー部を休部にしている。大型の団体部を1部にしている。
- 2、1年全員加入制をとっている。

事例5 泊高校 男子部のサッカー部、野球部、バレーボール部、バスケットボール部

男子の全校生徒数 170人

- 1、1年生全員加入制をとっている。
- 2、生徒減少過渡期。(学級減初年度)
- 3、野球部が部員難。

(2) 南砺総合高等学校福野高等学校の合同部活動(柔道)について

① 目的

部活動を通じて、南砺総合高校間の一層の交流を深めるとともに、自主的態度を思案する心の育成を図り、競技力の向上を目指す。

② 活動人数 27名

福野高校 22名(男子15名 女子7名)

福光高校 4名(男子1名 女子3名)

井波高校 1名(女子1名)

③ 活動場所

月曜日は自主トレーニングをし、その他は主に福野高校で行っている。また、年2回合同チームで合宿遠征を行い、高体連主催以外の錬成大会(年2回)にも南砺総合高校合同チームでエントリーし参加している。

④ 現状と問題点

南砺総合高校の柔道部員が柔道を通じて主体的に連携活動を行っており、互いに切磋琢磨してそれぞれの目標に向かって一生懸命に努力している。しかし、福光、井波高校の生徒はそれぞれ所属する学校において文化部に加入しており、合同練習には週3回程度の参加になる。さらに平日は17時頃からの参加になるため、練習時間の確保が難しい状況である。

また、今後、県高体連主催の大会などにおいて、合同チームによる参加が認められれば、生徒間による主体的な連携活動はますます活発となり、選手の競技力の向上が大いに期待できる。

5 考察

(1) 学校規模から診た部活動のモデル

調査結果から、部員不足は男子の部であり、しかもサッカー、野球で多く見られる。15学級未満の規模の学校で起こっている。16年度の調査からは「男子の集団競技の種目は、1部に付き学校の男子生徒数が約70人必要」「女子の集団競技の種目は、1部に付き学校の女子生徒数が約100人必要」と仮説を立てた。

つまり、15学級以上の規模の学校では、バスケットボール、野球とサッカーの人気の集団競技の種目を維持でき適切に活動できると考える。モデルを考えると次のようになる。

モデル1

各学年5学級の3学年計15学級の全校生徒数600人

男女比

男	女	男子生徒数	女子生徒数
5	5	300人	300人

男子集団競技の部が4つ可能

女子集団競技の部が3つ可能

男子部（バスケット、野球、サッカー）とあと1部

女子部（バレー、バスケット）とあと1部

モデル2

男	女	男子生徒数	女子生徒数
6	4	360人	240人

男子集団競技の部が5つ可能

女子集団競技の部が2つ可能

例 男子部（バスケット、野球、サッカー）とあと2部

女子部（バスケット、バレー）

モデル3

男	女	男子生徒数	女子生徒数
4	6	240人	360人

男子集団競技の部が3つ可能

女子集団競技の部が3つ可能

例 男子部（サッカー、野球、バスケット）

女子部（バレー、バスケット）とあと1部

また、小規模校の9学級でも男子校化すれば集団競技の部を多く維持できる。

スペシャルモデル

各学年3学級の3学年計9学級の全校生徒数360人

男	女	男子生徒数	女子生徒数
10	0	360人	0人

男子集団競技の部が5つ可能

例 男子部（サッカー、野球、バスケット）とあと2部

(2) 少人数での工夫された部活動運営の要点

しかし、急激な生徒減少に伴って県下の高校では学年の平均学級数が5を割っている。少人数の生徒で多くの集団競技の種目の部を維持している学校もあり要因をまとめた。

要因

- ・ 全員加入制もしくは1年全員加入制をとっている。
全員加入制・・・井波
1年全員加入制・・・富山工業、小杉、泊
- ・ 学校全体もしくは運動部の部数が少ない。
富山工業・・・女子の運動部2部
井波・・・男子運動部6部（集団競技の部2部）
呉羽・・・生徒数/全部数=23.8
- ・ 男子部のサッカー・野球・バスケット+αの典型をとらない。
仮説から3つの男子の集団競技の部には210人の男子生徒数が必要となるが、典型をとらない場合、小杉高校のように134人で野球・バレー・バスケットの3つの部が可能となりえる。

(3) 部活動運営診断

学校規模から適正な部活動数を研究した。男子の種目は1部につき約20人必要と仮定。そして集団競技の部は1部につき約70人必要と仮定する。全員加入制とした場合に今後の生徒数を推測し診断を試みた。調査研究の拠点校の呉羽高校と富山いずみ高校を診断した。

呉羽高校（平成17年度調査から）

男子生徒数191人

男子部

$191 \div 20 = 9 \dots 11$ 男子部は全部で9部設置可能？

$191 \div 70 = 2 \dots 51$ 男子の集団競技の部は2部設置可能？

実際

野球、サッカー、バスケット、ハンド

陸上、バドミントン、剣道、柔道、テニス 卓球

計10部

診断：ほぼ適正。ただし集団競技の部が多すぎる。

平成18年度

男子生徒数196人・・・男子部は全部で9部設置可能？

平成19年度推測

男子生徒数196人・・・男子部は全部で9部設置可能？

富山いずみ高校（平成17年度調査から）

男子生徒数142人

男子部 $142 \div 20 = 7 \dots 2$ 男子部は全部で7部設置可能？

$142 \div 70 = 2 \dots 2$ 男子の集団競技の部は2部設置可能？

実際

サッカー、バスケット、
陸上、バドミントン、剣道、テニス、卓球

計 7 部

診断：適正。

平成 18 年度
男子生徒数 121 人

実際

サッカー、バスケット、野球
陸上、バドミントン、剣道、テニス、卓球

計 8 部

診断：部の数が多すぎる。集団競技の部が多すぎる。

平成 19 年度推測
男子生徒数 100 人・・・男子部は全部で 5 部設置可能？

仮定の人数で診断しているため、あくまでも絶対ではない。しかし、現時点ではある程度の目安にはなると考える。

富山いずみ高校では、平成 17 年度の診断で適正とした。しかし、急激な男子生徒の増加が見込めない中、18 年 4 月に野球部が創部され男子の部活動が過多の状態になった。特活部では平成 18 年度中に男子部を 2 部減らす方針を打ち出している。学級減に伴って 19 年度は更に男子生徒数が減ると普通は考えられる。

6 まとめ

県下の学年の平均学級数が 5 を割っている状況で、部員不足等で部活動の運営に支障をきたしている学校が多数ある。さらに、しばらくは年々生徒数が減ることもあきらかになっている。学校内で部活動の運営の仕方を工夫したり、いくつかの部を廃部・休部にして部員不足を解消したりして対処はなされている。また、競技団体や専門部で合同チームの大会出場の規定が緩和されつつもある。平成 14 年度から県下の大会の合同チームの出場を認めたラグビー専門部、平成 17 年度から合同チームの出場や 3 年生の特別の参加を認めた富山県サッカー協会の U-17 県リーグ（資料 3）、平成 18 年度から新人戦そして全国選抜大会に合同チームの出場を認めた日本ソフトボール協会（資料 4, 5, 6, 7）等挙げられる。また、福野高校と福光高校で運動部合同部活動の協定が締結され本来の合同部活動（資料 8）が実現されるようにもなった。

平成 27 年度までに現在の高校数 43 校が 30 から 36 校に減らす計画が打ち出された。将来的には合同部活動や合同チームは生徒減・部員不足といった観点からは必要なくなるであろう。第 4 分科会では、特に後半の 2 年間は原点に戻り「今、なぜ合同部活動を考えなくてはならないのか」のテーマで調査研究した。急激な生徒減少によって学校の運動部活動がどうなっているのかを調査し、どう対処すれば良いのかを研究した。今しばらく続くであろう生徒減少の対処策の参考になれば幸いである。

資料1(アンケート用紙)

高校

全校生徒数	人
部の数(文化部+運動部)	部
部の加入率	%
加入制度	
1部あたりの人数	人(生徒総数/部数)
顧問数(外部講師は除く)	人

※例、全員加入、1年全員加入、自由。

※2部兼部の場合、1部につき0.5人。
3部兼務の場合、1部につき0.3人。

生徒に対する問題	
顧問に対する問題	

※例・幽霊部員がでる。
・団体に出場できない。
・女子の人数が少ない。

※例・顧問に引き受けてが少ない。
・兼務の顧問が多い。

全校の男子生徒数	人
運動部の男子の部の数	部
※該当の部に○印を付けて下さい。	
団体種目の部名(5人以上)	ラクビー、サッカー、野球、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、その他()
男子1部あたりの人数	人(全校男子数/男子部数)

・部員が少なく、試合出場等問題がある部
があれば◎で困ってください。

全校の女子生徒数	人
運動部の女子の部の数	部
※該当の部に○印を付けて下さい。	
団体種目の部名(5人以上)	サッカー、ソフトボール、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、その他()
女子1部あたりの人数	人(全校女子数/女子部数)

部活動がかかえる問題があれば、記入ください。

資料2

部活動調査一覧表

◎部活動数(運動部+文化部)

平成17年5月調査

学校名	生徒数	部数	部活動加入率	加入制度	生徒数/部数	顧問数	顧問数/部数	学級数
富山中部	837	39	94.0	1年全員加入	21.5	73	1.9	21
富山商業	825	30	100.0	全員加入	27.5	47.5	1.6	21
富山東	714	34	87.0	自由	21.0	45	1.3	18
富山工業	709	28	96.6	1年全員加入	25.3	77.5	2.8	18
富山いずみ	708	33	69.4	自由	21.5	65	2.0	17
桜井	675	38	95.0	全員加入	17.8	50	1.3	17
福野	587	30		1年全員加入	19.6	48	1.6	15
呉羽	570	24	45.1	自由	23.8	27.5	1.4	15
砺波工業	475	22	97.0	原則全員加入	21.6	43.6	2.0	12
小杉	470	33	81.3	1年全員加入	18.1	40	1.5	12
上市	462	24	85.7	1年全員加入	19.3	45	1.9	12
泊	429	27	83.7	1年全員加入	15.9	30	1.1	11
井波	329	18	100.0	全員加入	18.3	29.5	1.6	9
中央農業	255	9	36.0	自由	28.0	18	2.0	9
小矢部園芸	96	8	100.0	全員加入	12.0	13	1.6	3

※ 顧問数: 2部兼部は1部につき0.5人、3部兼部は1部につき0.3人で算出。

※ 学校名の網掛け: 5人以上の集団競技の部で部員不足が起きている学校。

○男子運動部数

男子運動部	男子生徒数	部数	男子生徒数/部数
富山工業	658	16	41.1
富山中部	469	13	36.1
砺波工業	468	12	39
富山商業	390	16	24.4
富山東	347		18.0
桜井	321	11	29.0
福野	286	13	22.0
呉羽	191	10	19.1
泊	170	12	11.7
上市	169	12	14.1
中央農業	149	9	16.6
富山いずみ	142	8	17.8
小杉	134	8	16.7
小矢部園芸	67	6	11.2
井波	67	6	11.2

○女子運動部数

女子運動部	女子生徒数	部数	女子生徒数/部数
富山いずみ	566	12	47.2
富山商業	435	12	36.3
呉羽	379	9	42.1
富山中部	368	9	40.9
富山東	367		
桜井	354	11	32.2
小杉	336	8	42.0
福野	301	12	25.1
上市	293	11	26.6
井波	262	9	29.1
泊	259	8	32.4
中央農業	106	0	35.0
富山工業	51	2	25.5
小矢部園芸	29	3	9.7